

令和4年度事業報告

1 概要

令和4年度は、安倍元首相襲撃事件や特殊詐欺に関連した事件等が多発して人々の生活も落ち着かない状況でありましたが、サッカーワールドカップやワールド・ベースボール・クラシックの優勝等スポーツでは国民が、大いに盛り上がった年となりました。国外においては、ロシアによるウクライナ侵攻が行われ多くの犠牲者が出る報道を見るたびに心が痛むと共に早い終息を願うところです。

新型コロナウイルスも令和2年に国内で1例目が発生してから3年が経過し、感染者増の波を幾度も迎えながら当初の頃に比べたら少し落ち着いてきました。3月13日からマスク着用も規制のある場所以外は、個人の判断に委ねられコロナ以前の生活に戻りつつあります。

センターにおいては、会員・役職員にコロナ感染対策に努めて頂きましたが、会員・職員に数名の感染者が出たものの大事に至らなかった事が幸いでした。

コロナ禍にあって、本市においても定年年齢や雇用年齢の延長等の制度改革が進むなか、当センターの当年度入会者は18名で前年度比10名の増となりました。入会者増はセンター事業の重要課題であり、地域ニーズに応える重要な要素であります。一方で長寿会員の方々が病気等の理由により20名退会となりました。結果として前年度末の173名に2名減となり171名となりました。

受託事業実績における、受託件数は1,802件で53件の増加(前年度比100.3%)、契約金額は51,110千円で(前年度比101.4%)対前年度726千円の増額となりました。一方、労働者派遣事業は契約金額が10,974千円(前年度比93.4%)対前年度777千円の減額となったところです。

安全・適正就業対策推進委員会は安全パトロールを5回実施しました。「自分の身は自分で守る」を念頭に安全就業基準の順守に努めてきました。

事業の実施状況については以下のとおりご報告いたします。

重点項目の実施状況報告

(1) 組織体制の強化並びに基本理念の周知徹底

今年度の委員会活動は、コロナ対応を加味したことで変則的な活動となった。安全・適正就業対策推進委員会を4回開催、広報委員会が6回、総務委員会は1回、女性会員活動委員会を1回開催した。

地区班会については新型コロナウイルス感染状況等を配慮し、開催を見送る事としました。

(2) 就業機会拡大事業の推進

受託事業実績は受託件数で1,802件で53件の増加となった。契約金額は

51,110千円となり726千円の増額となりました。

会員拡大については男性11名、女性7名の計18名が会員登録されましたが、男性9名、女性11名の計20名が退会となり昨年度末より2名減の会員171名となりました。

(3) 普及啓発事業の取り組み

普及啓発については、「シルバーあくね」を9月と1月の年2回発行して理事長のあいさつの他、「永年勤続表彰」や「年男年女の会員」紹介やボランティア活動などについてお知らせしました。

また、入会説明会の開催日を市報に6回掲載と会員募集の新聞折込みを2回実施した他、「ふるさと見守り隊」のチラシも新聞折込みとして2回実施し、センターの事業内容や依頼方法などについての周知を図ったところです。

その他、10月の普及啓発活動月間に三密を避けながら総合運動公園、漁港緑地公園のちり・空き缶拾いのボランティアを実施して普及啓発に努めました。

また、昨年6月より竹細工同好会製作の竹工芸品を阿久根市の「ふるさと納税返礼品」として登録を行い多くの注文を受けました。この事により阿久根市シルバー人材センターの広報・周知にも大いに貢献されています。

(4) 安全適正就業の推進

安全・適正就業対策推進委員会の安全パトロールを5回実施しました。

事故については、傷害事故はなかったものの賠償事故が1件発生しました。

今後も引き続き安全大会や講習会等で会員の安全就業の周知徹底を図り、安全で適正な就業で事故ゼロを目指していきます。

(5) 労働者派遣事業の推進

労働者派遣事業の契約金額は、10,974千円（前年度比93.4%）となり対前年度777千円の減額となりましたが、派遣等受託事業収益においては64千円の増額となりました。

また、派遣事業の相談も増加傾向にあり、契約に繋がるよう特に女性会員の人材確保に努める事としています。

(6) 美しく風格のあるまちづくり事業の推進

企画提案事業から業務の中で継続している空き家や耕作放棄地等の事業について市内、県外からの草払い・剪定・清掃作業や墓守り（ふるさと納税を含む）などインターネットを利用した注文が増加しており、今後もホームページによる情報を積極的に発信していきます。